

新社名ANA Nippon Cargo Airlinesに

■27年下期以降に変更、新ブランドは4月1日

ANAホールディングス（ANAHD）は14日、2027年4月1日に予定するグループ内の貨物事業会社3社の統合に伴う新会社の社名を「ANA Nippon Cargo Airlines」、ブランド名を「ANA Nippon Cargo」にすると発表した。27年4月1日時点の社名は日本貨物航空とし、新社名への変更は27年下期以降を予定する。新ブランドは27年4月1日に適用を開始する。



ANAとNCAの貨物機。ブランドロゴや機体デザインの変更は現在検討中

ANAHDは新たな社名・ブランドについて、ANAグループとしての一体感や、新会社が提供する最高水準のサービスを支える「Nippon Quality」への誇り、3社が積み重ねてきた信頼・専門性を結び、新たな一步を踏み出すとの思いを込めた。「Cargo Airlines」とすることで、自ら航空機を運航し、安全・品質に責任を負う貨物航空会社であることも明確にした。新ブランドの詳細は新会社設立時などに改めて発表する。

ANAグループはANA Cargo、日本貨物航空（NCA）、NCA Japanの3社を27年4月1日付で統合する。NCAを存続会社とし、同社の航空運送事業許可（AOC）を継続する。NCAのグループ加入後、ANAとNCAは共同で事業計画を策定しており、本邦最大のコンビネーションキャリアとして、ANAの旅客便ベリースペースに加え、ANAの貨物便ではアジア、NCAの運航便では欧米のネットワーク強化を図っている。

統合会社がANA 旅客便ベリース

ペースの販売を担うかについて、ANA HDは「現時点で具体的に決まっていない」と回答。顧客の利便性向上や収益拡大に向けて検討を進めるとした。統合時点での新会社の従業員規模についても、現時点で具体的に示せるものはないという。新ブランド導入に伴うブランドロゴや貨物機の機体デザインの変更も現在検討中で、決定次第発表する予定だ。

NCAは25年8月1日付でANAグループに加わった。同4日の会見でANAHDの芝田浩二社長は、ANA CargoとNCAについて「会社統合という形になっていくと考えている」と表明。ネットワークの再編やマーケティング、セールスを一緒に進めていく考えを示していた。

ANAHDは同年12月、グループ内の貨物事業会社の再編に向けた検討、準備を開始。26年度末までの再編完了を目指し、再編後もNCAのAOCを継続することを前提として、意思決定の迅速化やコスト構造の最適化、収益性の最大化を図る方針を示した。

今年3月にはANA Cargo、NCA、NCA Japanの3社を27年4月1日付で統合することを正式決定した。ANA Cargoが持つコンビネーションキャリアとしての知見と、NCA、NCA Japanの貨物専門航空会社としてのノウハウを統合し、ANAグループの貨物事業の競争力を強化する。

統合に向けて今年4月以降、海外での販売体制を順次一元化しているほか、国内では中部空港と関西空港の上屋業務を集約。海外でもシカゴ空港やロサンゼルス空港などで上屋体制の集約を進めている。ANAとNCAでは貨物スペースの相互活用や、北米・欧州路線での貨物便コードシェアなども実施している。

ANAHDは貨物事業をグループの持続的な成長を牽引する重要なドライバーと位置付ける。中期経営戦略では貨物事業での統合・シナジー効果300億円の創出を掲げ、アジアを代表するコンビネーションキャリアを目指している。